

2016年度第3回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 瓢湖特別

瓢湖（ひょうこ）は、新潟県阿賀野市にある人造湖。毎年、冬になるとシベリアより数千羽の白鳥が訪れる。白鳥飛来地として国の天然記念物に指定され、平成20年にはラムサール条約登録湿地となった。

○ 妙高特別

妙高（みょうこう）は、新潟県南西部の市。日本有数の豪雪地帯として知られる。また、新潟県南西部にある成層火山。標高2454m。越後富士とも呼ばれ、上信越高原国立公園に含まれる。東麓に広がる妙高高原には、温泉やスキー場などが点在し、リゾート地として賑わう。

○ 稲光特別

稲光（いなびかり）は、稲妻のこと。古来より、電光が稲を突かせると考えられていたことから、「稲」という言葉が使われているという説がある。本競走は、直線1000mのコースを各馬が稲光のように一瞬で駆け抜ける競走をイメージして名付けられた。

<第2日>

○ 粟島特別

粟島（あわしま）は、新潟県北部にある島。周囲約23km。手付かずの自然が多く残り、バードウォッチングが盛ん。また、水産資源にも富んでおり、タイ・サバ・メジマグロなどが水揚げされる。

○ 信越ステークス

信越（しんえつ）は、信濃国と越後国を合わせた旧国名であり、名は両国に因んでいる。現在の長野県および新潟県にあたる。

○ 鳥屋野特別

鳥屋野（とやの）は、新潟市中央区の地名。同地にある鳥屋野潟は、市内で最も大きい潟で、コハクチョウを中心に約3000羽の白鳥がシベリアから飛来する。周辺には、桜並木の美しい県立鳥屋野潟公園や、プロサッカークラブのアルビレックス新潟の本拠地「デンカビッグスワンスタジアム」などがある。

<第3日>

○ 萬代橋特別

萬代橋（ばんだいばし）は、新潟市の中心部を流れる信濃川に架かるコンクリート橋。全長 306.9m。古くから新潟市の象徴とされてきた。明治 19 年に最初の本橋が開通し、現在の橋は昭和 4 年に完成した 3 代目。平成 16 年に国の重要文化財に指定された。

○ 飛翼特別

飛翼（ひよく）は、互いの翼を並べて天高く舞う鳥の様子のこと。本競走は、直線 1000 m のコースを各馬がスピードを競い合い、互いに鼻を並べてゴールインする白熱した競走をイメージして名付けられた。

○ 寺泊特別

寺泊（てらどまり）は、新潟県長岡市の地名。古くは北陸街道の宿場町として栄えた。寺泊港と佐渡島の赤泊港との間には、定期航路が運航されている。

<第4日>

○ 浦佐特別

浦佐（うらさ）は、新潟県南魚沼市の地名。一帯は上越の深雪地帯で、数多くのスキー場が点在している。

○ 北陸ステークス

北陸（ほくりく）は、北陸道のこと。五畿七道のひとつで、若狭・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡の 7 国のことをいう。

また、中部地方の日本海側の地域のこと、新潟・富山・石川・福井の 4 県を指す。なお、昨年、東京と金沢を結ぶ北陸新幹線が開業した。

○ 十日町特別

十日町（とおかまち）は、新潟県南部に位置する市。毎年の平均積雪は 2m を超え、「特別豪雪地帯」に指定されている。市内を南北に流れる信濃川と十日町盆地によって、雄大な河岸段丘が形成されている。

<第5日>

○ 柏崎特別

柏崎（かしわざき）は、新潟県中部の市。古来より北国往還の要衝で、人々の往来や文化の伝播、物資の移動が活発に行われてきた。海水浴場が点在しており、夏には多くの海水浴客で賑わう。

○ 魚沼特別

魚沼（うおぬま）は、新潟県の南東部、福島県と群馬県の県境に位置する市。冬には積雪が3mを超える豪雪地域である。また、コシヒカリの産地としても有名。

○ 飛翔特別

飛翔（ひしょう）は、空中を飛び翔けること。本競走は、空中を飛ぶようなスピード感あふれる競走をイメージして名付けられた。

<第6日>

○ 岩船特別

岩船（いわふね）は、新潟県の北端に位置する郡で、朝日山地をもって山形県と境をなす。7世紀頃の大和政権は、この地に「磐舟柵」を設置し、蝦夷対策の最前線とした。また、県下魚沼郡と並ぶ新潟米の産地としても知られる。

○ ルミエールオータムダッシュ

ルミエールは、フランス語で「光」という意味を持つ言葉。本競走は、直線1000mのコースを、光の如く駆け抜けるサラブレッドをイメージして名付けられた。

○ 松浜特別

松浜（まつはま）は、新潟競馬場に近い漁港の町。川の水と海水が混じり合う松浜の沖合には、貝類が多く生息している。